



自立活動では、抽出された中心課題から、指導目標を設定し、担任・担当間で共通理解を図り、実践にあたります。本校で取り組んでいる、自立活動（時間における指導）の実践例をご紹介します。

## 自立活動（時間における指導）実践紹介 ～小1年生の例～

### S児の実態

好きなこと、得意なこと （強みとして活用できる）	<ul style="list-style-type: none"><li>何かを手に持っている（と安心する）</li><li>見通しがもてると自分から行動する</li><li>写真を見て、何をしているか理解できる</li><li>選択肢があると答えられる（伝えられる）</li></ul> ほか
教師が問題と感じている言動等	<ul style="list-style-type: none"><li>自分のやり方、思いと異なると活動が中断する。</li><li>自分なりのやり方を押し通そうとする。</li><li>新しい人には不安がある。</li></ul> ほか

### S児の中心的な課題（今指導すべき課題）

☆ **自分のルールを押し通そうとする様子があることから、他者を受け入れる力を育成することが必要である。**

- 安定した人間関係を中心に、自分から関わられるようにする。
- 伝えやすい表出手段を身につける。

### 他児（同学習グループ）の中心的な課題（今指導すべき課題）

- 教師とのふれあい遊びややり取りを通して、他者と関わる基礎を作る。
- 他者との関わりややり取りを通して、自分の気持ちを伝える手段を身に付けたり、教師の話しかけや提案を受け止めたりすることができる。
- 他者からの支援や提案を受け入れ、ルールを守り、集団での活動に参加できる。
- 自分の気持ちを適切に表現することができる。

例えば、こんな活動

### 指導の実際

題材名	「一緒に遊ぼう ～いすとりゲーム～」
指導内容	学級集団の中で、簡単なルールのあるゲーム（今回はいす取りゲーム）を行う。
身に付けさせたい力	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 他者と関わったり、他者を受け入れたりする力</li><li>・ 適切に意思を表出する力</li><li>・ 好きなことに気付く力</li></ul>

## 学習の様子



教師と一緒にゲームに参加。  
**他者と関わる、受け入れる**



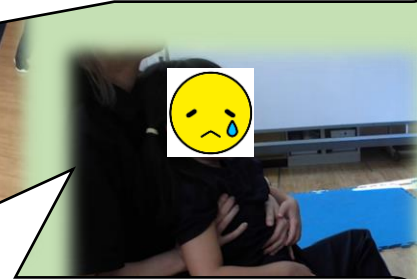
教師と一緒に活動を繰り返すと、教師の関わりを受け入れたり、自ら関わったりする姿が見られた。



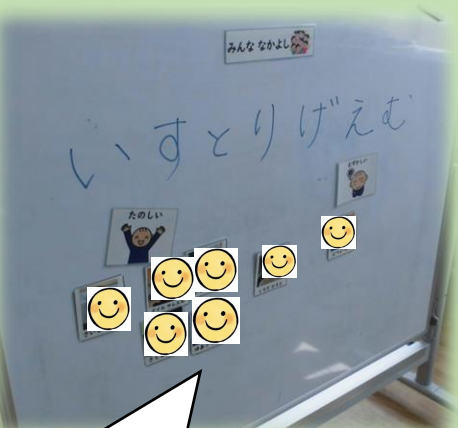
同じ椅子に座ってしまった！  
「じゃんけんで決めよう。」  
**適切な意思の表出、他者の受け入れ**  
※教師は、やり取りの仲立ちとなり、成功体験が感じられるようにする。



活動場所と待機場所を分かりやすく。  
**取り組みやすい環境の設定**



子：「思うとおりにいかない！」  
T：「そうだね。〇〇だったね。」  
**意思の表出、他者との関わり → 気持ちの調整**  
※児童の気持ちを受け止め、一緒に落ち着くのを待つ。1人の方が、気持ちを切り替えやすい場合もある。



「たのしい」「むずかしい」の2択から気持ちを言葉で表出する。  
**適切な意思の表出**  
※絵カードを指さす、文字を読んで言葉にするなど、個に応じた表出を促す。

## 「時間における指導」を「全体の指導」に活かす

### 教育活動全体での指導場面

☆ 学級の担任、担当との安定した関係を軸にして、学習によく参加している学級以外の教師とも関われるようにする。

<音楽、体育>

・学習活動の中で、音楽担当、体育担当の教師と関わる。

<係活動>

・保健係の活動を通して、養護教諭と関わる。

<登下校>

・玄関付近で見守りをする教師とあいさつを交わす。